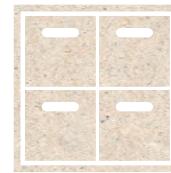


会社案内

2024 — 2025

株式会社
良品計画
Ryohin Keikaku Co., Ltd.



企業理念

「人と自然とモノの望ましい関係と心豊かな人間社会」を考えた商品、サービス、店舗、活動を通じて「感じ良い暮らしと社会」の実現に貢献する。

二つの使命

- 日常生活の基本商品群を誠実な品質と倫理的な視点から開発し、使うことで社会を良くする商品を、手に取りやすい価格で提供する。
- 店舗は各地域のコミュニティセンターとしての役割を持ち、地域の皆様と課題や価値観を共有し、共に地域課題に取り組み、地域への良いインパクトを実現する。

根本方針

提供する商品、サービス、活動を通じて、資源循環型・自然共生型の社会、持続可能な社会の実現に貢献する。社会や人の役に立つ、という根本方針のもと、社員および事業関係者一人一人が、社会全体や地球でいま起きている課題に敏感に呼応し、すべての事業分野において提供する商品、サービス、活動それぞれの全ライフサイクルにわたり、地球環境負荷の低減や個人の尊重に努める。

経営方針

オーナーシップを持った社員を事業活動の主役に据え、地域に根差した個店の活動、個々の社員や事業関係者の活動が公益に寄与する公益人本主義経営を実践する。

企業価値向上

活動の結果として、高い収益構造をつくり、正しく納税し、適正な株主還元を行う。さらに、ステークホルダーの皆様と、社会への良いインパクトを共創することを目指し、長期的な企業価値向上に努める。

無印良品について



1980年当時の40品目

無印良品の誕生は1980年。起点はものの生産プロセスを徹底して合理化することで簡潔で気持ちのいい低価格商品を生み出すことでした。「素材の選択」「工程の点検」「包装の簡略化」を通して見つめ直した実質本位の商品をつくり続けています。1983年に東京・青山に無印良品の単独店を出店、ものづくりから店舗環境、スタッフの接客まで、一貫した思想のもとで推進め、気持ち良くお買い物をしていただける空間を目指してきました。

現在^{*}、無印良品は、世界29の国・地域に1,300店舗以上を展開し、商品アイテムも、衣服や生活雑貨、食品、そして家まで揃えました。しかしその思想の根幹は誕生当時と変わらず、北をさす方位磁石のように、生活の「基本」と「普遍」を指し続けています。

*2024年8月末現在

会社概要

会社名	株式会社良品計画	資本金	67億6,625万円
所在地	〒112-0004 東京都文京区後楽二丁目5番1号 住友不動産飯田橋ファーストビル	決算日	8月末日
ホームページ	https://ryohin-keikaku.jp/	年商	6,616億77百万円(2024年8月期) (良品計画グループ連結営業収益)
設立	1989年6月(登記上1979年5月)	従業員数	24,642名(2024年8月期) (臨時従業員等12,571名を含む/良品計画グループ)
代表取締役	代表取締役社長 清水 智		

もっと知りたい ▾



<https://ryohin-keikaku.jp/corporate/overview.html>

主な事業

店舗運営

1980年に「わけあって、安い。」をキャッチコピーに誕生した「無印良品」は、日々の暮らしを豊かにする、役に立つ商品とサービスを津々浦々にお届けするため、現在1,000を超える店舗や自社ECサイト「無印良品 ネットストア」で提供しています。「無印良品」は、旅や移動に役立つアイテムを凝縮した厳選ショップ「MUJI to GO!」や毎日の暮らしに欠かせない日用品や消耗品など500円以下を中心とした商品を集めた店舗「無印良品 500」も展開しています。



また、地域の活性化に貢献することを目指し、生産者とお客様をつなぐよう、産地直送マーケット「諸国良品」を店舗とECサイトで展開し、地域産品を販売しています。日本国内の各地域に根差したもの、環境・文化を守る取り組み・地域課題解決を担う商品などをつくり手の想いと共にお届けしています。

建築・空間設計

まち全体を“自分たちの住まう場”と捉えて、その土地の地域資源を生かしながら、多様な領域における空間をデザインしています。そこで大切にしているのは、地球環境や地域の資源循環を考慮した素材選びや木材・鉄・土壁など自然素材を多く取り入れた建築設計、そして使い手が愛着を持ち続けられる空間のための共創のプロセスです。



大規模木造建築物の設計 / 施工から、戸建住宅の販売、集合住宅のリノベーション、またオフィスや公共空間、宿泊滞在施設のデザイン、これらの空間に適したオフィス什器などの循環型商品の開発に至るまで、さまざまな場づくりを行っています。

IDÉE

IDÉEは1982年にスタートしたインテリアブランドです。「美意識のある暮らし」をコンセプトに、国内外のデザイナーとつくったオリジナル家具、雑貨、セレクトしたテキスタイルやプロダクト、ヴィンテージアイテム、グリーン、音楽や本など幅広く紹介し、直営店の「IDÉE SHOP」や一部「無印良品」の店舗内、ECサイトで販売しています。



また、“日常芸術”をテーマにアート(=文化)を広げるアートプロジェクト「Life in Art」では、有名無名、時代性を問わず、そのクリエーションに共感するアーティストや作家の作品紹介から、企画展、コラボレーション作品販売まで幅広い取り組みを行っています。多様な価値観や見立てで、美意識のある暮らしを育む「もの」や「こと」を提案しています。

外食・食と農

食を通じた地域・コミュニティの活性化を目指し、さまざまな取り組みを行っています。全国各地で展開しているレストラン「Café&Meal MUJI」では地場の旬の食材をたっぷりと使った、食材本来の味わいを楽しむことができる料理やデザート、ドリンクを提供しています。銀座にあるレストラン「MUJI Diner」では日本の伝統的で質の良いローカルフードを使用したイタリア地中海料理を提供しています。

また、自治体や地域の生産者、事業者とともに、農畜水産物や山、田んぼ、畑など地域資源の活用にも取り組み、交流施設の運営や地域産品の開発、農地保全を行っています。



宿泊

宿泊滞在の取り組み「MUJI STAY」では、「地域に溶け込むもうひとつの暮らし」をコンセプトとし、さまざまな地域で無印良品の世界観を体感できる宿泊・滞在・体験サービスを提供しています。「MUJI HOTEL」「MUJI BASE」「MUJI room」「MUJI Camp」の4つのサービスを展開しており、一時的な非日常の提供ではなく、何度も来る、長く過ごすことにより深く楽しめるコミュニティ型の中長期滞在を提案しています。



もっと知りたい

<https://www.ryohin-keikaku.jp/corporate/business/>



商品開発について

3つのわけ

無印良品のものづくりの基本となる考え方は創業当時から変わっていません。時代が変わっても、変わらない3つの視点、①素材の選択、②工程の点検、③包装の簡略化、を守りながら“商品の原点を見直す”という姿勢で実質本位の商品をつくり続けています。

無印良品が目指すのは、「これがいい」ではなく「これでいい」という理性的な満足感をお客さまに持っていたいこと。つまり品質も価格も十分「これでいい」という意味です。ただ、そこに若干含まれているかもしれない不満や妥協を解消して、自信に満ちた「これでいい」を実現していきます。

素材の選択

おいしくて健康にも役立つ食品。着心地よく、身体に信じる衣服。使い勝手を第一に考えた生活雑貨。ふだん見過ごしがちな基本のものづくりのために素材を見直します。品質は変わらないのに、見栄えのために捨てられているもの。業務用の素材。世界中から見つけた原材料や、安価で大量に確保できる旬のものなどを生かして、低価格で質の良い商品が生まれました。



工程の点検

ひとつの商品ができるまでのプロセスを徹底的に点検する。選り分けたり、大きさを揃える手間も不要。不揃いのままだったり、つや出しせずに仕上げたり、商品本来の質に関係のないムダな作業を省いて必要な工程だけを生きました。規格外のサイズ、かたちで捨てられていたものも商品に。素材をムダなく生かし、コストダウンにもなる、実質本位のものづくりです。

包装の簡略化

飾らず、もの本来の色やかたちのままを大切にしたい。過剰な包装をしない。まとめて一括包装に。共通容器に入れる。シンプルなもののづくりであると同時に、地球の資源をムダにせず、ごみを減らすこともできるのです。無印良品の商品はすべて、成り立ちのわけが印刷されているパッケージであっさり包まれていたり、タグがつけられているだけで、店頭に並んでいます。

もっと知りたい ▾

<https://ryohin-keikaku.jp/about-muji/principles/>



無印良品を代表する“生活の基本となる日用品”

無印良品は、日常生活に役立つ、暮らしの基本となる品々を取り揃えています。毎日使うものだからこそ適正な品質と価格でより多くのお客さまに提供することを目指しています。

衣料品

洗いざらしブロードシャツ

(1983年—)

綿本来の風合いを生かすために、洗いざらしで仕上げました。洗ったまま自然なしわを生かしても、きちんとアイロンをかけても着られる定番のシャツです。



デニムパンツ

(1987年—)

時代に合わせて見直しを行いながら定番となったデニム。2023年より植物繊維のひとつであるカポックと綿を混紡した生地も使用し、環境に配慮したウォッシュ加工を施しています。



足なり直角靴下

(2006年—)

かかとの形に合わせて直角に編み立てた、足にフィットしてずれにくい靴下です。無印良品のすべての靴下は直角になっています。



疲れにくいスニーカー

(2013年—)

スムーズな歩行を誘導する、歩きやすく疲れにくいインソールを内装しています。撥水加工を施した生地でつくりました。2023年秋からは、履き心地はそのままに、ハトメ部分を刺繡に変更し、金属パーツをなくしています。



生活雑貨

ふっくらパイルタオル

(2023年—)

2023年にリニューアルしました。繊維長の長い綿を2本使い(双糸)に紡績し、ふっくらと織り上げました。やわらかな肌触りのタオルです。洗濯を繰り返してもふっくら感が続きます。



脚付マットレス

(1991年—)

ベッドとしてだけでなく、ソファのように使えます。発売後も、スチールフレームなどパーツを分離できる構造に変更し部分的な交換を可能にするなど、改良を重ねており、2023年からは組立仕様になりました。



敏感肌用スキンケア

(2000年—)

岩手県釜石市の天然水を使用した低刺激性のスキンケアシリーズです。2023年秋にリニューアルし、天然由来成分100%になりました。敏感肌に不足しがちなセラミドなどを配合しています。



ヘッドが付け替えられる掃除用品 (2001年—)

掃除する場所に合わせて、ポールとほうきやフローリングワイパーなどのヘッドの組み合わせを替えて使う掃除用品のシリーズです。



食品

バナナバウム

(2000年—)

2017年の仕様見直しで、焼きムラや凸凹、変形など、おいしさに関係なくはじかれていたものも生かし、「不揃いバウム」としてリニューアルしました。



フライパンでつくるミールキット (2021年—)

カットされた魚介類や肉と野菜とソースがセットになった冷凍食品です。具材を冷凍のままフライパンに入れて炒め、ソースをからめるだけ簡単に一品できあがります。魚や肉をメインにしたメニューでおつまみにも適しています。



素材を生かしたカレー バターチキン (2009年—)

3種のトマトと鶏肉のコクを生かし、ギーでまろやかに仕上げました。現地の味と文化に学び、これまでに5回の見直しを重ねながらおいしさを追求しています。



もっと知りたい

<https://www.ryohin-keikaku.jp/corporate/history/>

店舗について

良品計画は、衣・食・住の生活の基本領域において、品質と意味を磨き続けた商品を適正価格で提供すること、また、それぞれの店舗がその地域の活性化に取り組む個店経営を推進することで、「感じ良い暮らしと社会」の実現を目指しています。その店舗数は、日本を含む29の国・地域で1,300店舗以上となっています。これからも、各国・地域の皆様の「役に立つ」存在となるために、商いを通じて「人と社会」に貢献することを目指していきます。

■ 日本国内店舗数			
無印良品店舗	623	Café&Meal MUJI 店舗	24
■ 海外 国・地域別 MUJI 店舗数		682	
中国大陸	398	アイルランド	1
香港	22	フィンランド	1
台湾	65	デンマーク	1
韓国	42	ポーランド	1
イギリス	7	アメリカ合衆国	10
フランス	6	カナダ	6
イタリア	5	シンガポール	12
ドイツ	7	マレーシア	12
スペイン	4	タイ	37
ポルトガル	1	インド	3
■ 海外 Café&Meal MUJI 店舗数		27	
		(2024年8月末時点) ※ライセンスストア含む	

さまざまなかたちの無印良品



MUJI to GO 無印良品をぎゅっと凝縮。

MUJI to GO は無印良品の全商品から、旅・移動・ビジネス・学習・遊びに役立つアイテムをぎゅっと凝縮した厳選ショップです。便利な機能付きの文具や旅行が楽しくなるグッズ、普段の暮らしをそのまま持ち運べるものなど、空港で出会うとうれしいアイテムが揃っています。

<https://www.muji.com/jp/mujitogo/>



Found MUJI

Found MUJI 世界中から、良いものを。

ものをつくるというよりは、「探す、見つけ出す」という姿勢で暮らしを見つめ、世界中で永く使われてきた日用品を揃えています。もののエッセンスを残しつつ、現代の生活や文化、習慣に合わせて少しだけ改良し、適正な価格で再生していく活動を、これからも皆様と一緒にに行っていきます。

<https://www.muji.net/foundmuji/>



無印良品 500

500円以下の日用品を中心に集めました。

毎日の暮らしに欠かせない日用品や消耗品を、環境に配慮したものづくりと500円以下を中心とした価格で、インナーやキッチン用品、スキンケア用品、レトルト食品など、無印良品の衣料品・生活雑貨・食品の商品のなかから選びました。

<https://www.muji.com/jp/ja/feature/dailygoods/1065486>

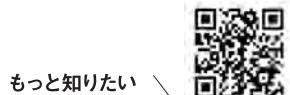


MUJI 無印良品

ネットストア

無印良品は、暮らしの基本となる品々を無駄な包装や工程を省くことで、お求めやすい価格にて提供しています。自社 EC サイト「無印良品ネットストア」の運営に加え、「Amazon」や「楽天市場」などの通販サイトへ出品、出店することによって、本当に必要なものを適切な品質と価格でより多くのお客さまに提供し、さらなる利便性の向上を目指します。

<https://www.muji.com/jp/ja/store>



もっと知りたい ▾

<https://www.ryohin-keikaku.jp/news/icShop/>

国内・海外出店トピックス

特色ある新規オープン店舗



可児市の地域活性化を目指し、「無印良品 ヨシヅヤ可児」オープンおよび地域商社の設立

良品計画は、「感じ良い暮らしと社会」の実現に向けて、地域の皆様と課題や価値観を共有し、地域課題の解決に取り組むとともに地域を活性化するべく、地域事業部を設置しています。これまで岐阜事業部では、県内の各店舗やキャンプ場を拠点に、地域活性化の活動を進めてまいりました。岐阜県可児市においては、2023年6月に「地域活性化等に関する包括連携協定」を締結し、11月には無印良品の店舗内に図書館が設置された店舗「無印良品 ヨシヅヤ可児」をオープンしました。基本の商品・サービスを取り揃えるとともに、図書館を起点にした企画、イベントを通じて子育てや次世代育成支援、市の自然・歴史・文化資源の継承や魅力づくりに寄与するような店舗を目指しています。また、2024年5月には可児市と共同で、当社初の試みとなる、地域商社「一般社団法人 カニミライブ」を設立しました。特産品の販売や地域ブランドの開発、販路拡大などを通じて、地域経済の振興や関係人口の創出・定住促進を図っています。



全国で初めて離島に直営店を出店 「無印良品 対馬」オープン

2024年3月に長崎県対馬市に無印良品の店舗を出店しました。良品計画は「日常の基本を支える」ことを目指し、出店が少なく空白地帯となっていたエリアなど全国津々浦々の生活圏に出店を進めています。対馬はスーパーマーケットやドラッグストアはあるものの、衣料品や家具などを購入できる店は少なく、通信販売を利用するか、島外で買い物するケースも多く見られ、島外への移動手段の確保を含む買い物支援が課題となっています。そこで、地域に住むお客様の生活の基本を支えることを目指し、日常的にご来店いただきやすいように、対馬市の食品スーパー「サイキバリュー美津島店」の2階に、日用品・収納用品や衣料品など、日常生活の基本を支える商品を取り揃える店舗を出店しました。



中国大陸で最大規模の旗艦店を北京にオープン「無印良品 北京朝阳大悦城」

2024年2月に中国北京市の商業施設、朝陽大悦城にある「無印良品 北京朝阳大悦城」の総店舗面積を4,654m²に増床改装し、中国大陸最大の旗艦店としてオープンしました。良品計画ではグループ全体として、資源循環型・自然共生型・持続可能な社会の実現に貢献することを目指しており、昨年オープンした「無印良品 上海静安嘉里」に続き、多くのリサイクル材を活用した店舗となっています。回収された衣類を再加工して装飾パネルに活用したり、農業で焼却処分される穀物の茎を加工してボードとして利用したり、床材には廃棄される磁器片と靴底の材料をリサイクルするなどしています。空間レイアウトにおいても、自然光を最大活用することで消費電力の低減と明るく快適な買い物体験を提供しています。また、無印良品で販売した家具を回収し、クリーニングした後、再度販売する「MUJI CYCLE」や、オリジナルワインの発売など、中国で初めてとなるサービスも展開しています。今後も旗艦店のリニューアルを含め、未出店の主要都市への展開を進めてまいります。



もっと知りたい

<https://www.ryohin-keikaku.jp/news/>

広がっている無印良品の活動

良品計画が展開する無印良品は、単なる製品の集まりではありません。暮らしの些細な断片から地球規模の未来までを見通し、考え方抜く気配りの集合体でありたいと思います。社会で今、起きているさまざまな課題に敏感に呼応し、「良心とクリエイティブ」からそれらをより良い方向に解決していくプラットフォームでありたいと願っています。この想いのもと、さまざまな活動に着手しています。



もっと知りたい ▶

<https://ryohin-keikaku.jp/about-muji/activities/>



「商い」を通じて社会に貢献する

良品計画は、ESG 経営のトップランナーを目指しています。各自治体や地元住民が主役となって、それに当社が巻き込まれるかたちで地域を活性化していくさまざまな取り組みや、地球資源の循環化および廃棄物削減の取り組みを進めています。



地域の課題解決や まちづくりに貢献する取り組み

良品計画は、「感じ良い暮らしと社会」の実現を目指して、無印良品の店舗を軸に、地域課題の解決やまちづくりへの貢献を図る活動を地域の方々と共に進めています。

その一環として、省庁や自治体と連携する取り組みを拡大しています。北海道札幌市(2023年12月)との「さっぽろまちづくりパートナー協定」の締結、佐賀県唐津市(2024年8月)と大分県日田市(同8月)の各市とは、店舗に設置している防災設備を提供する連携協定を締結し、2024年8月末時点では33の省庁、自治体と連携協定を締結しています。

今後も自治体や地元企業、地元住民の方々と連携して地域振興につなげるとともに、地域の暮らしの役に立つことを目指していきます。



「いつものもしも」 防災プロジェクトの取り組み

無印良品は、2011年から使い慣れた日用品などを利用して日ごろから災害に備えるためのプログラム「いつものもしも」を実施しています。そのひとつである「いつものもしも CARAVAN」は、「地域とつながる・楽しく学べる」をコンセプトに、子供から大人まで楽しく防災を学ぶことができるイベントです。地域住民、企業、行政が垣根なくつながることで地域全体の防災力が向上することを目指し、2024年には、日本全国8ヶ所で開催しました。そのほか、普段も使えて災害時に役立つアイテムを厳選した防災セットなど防災グッズの販売や、保存期間が長く災害時にも役立つ「備蓄ごはん 白米」や「備蓄おやつ チョコようかん」などの商品も展開しています。家庭だけでなく、企業や自治体の備蓄品にも活用することができます。

また、日ごろから備える「いつものもしも」の考えは、海外にも展開しており、MUJI 台湾でも取り組みが行われています。



プラスチックごみの削減および 資源の循環化への取り組み

プラスチック製パッケージを用いるすべての商品で、可能な限りパッケージをなくしたり、再生紙などの代替素材に変更する取り組みを行っています。2021年秋冬商品からはプラスチック製の衣料品のタグピンをFSC®認証紙(再生紙を含む)を使用した紙製タグピンに順次変更しています。

また、プラスチックの収納用品やスキンケア商品のPETボトルの回収を行っています。回収された製品は、再販売または、再生原料や再生材入りの商品をつくる素材として活用します。また、プラスチックに代わる素材として軽くて丈夫な紙素材の硬質紙のファイルボックスも販売しています。「ReMUJI」は店頭で回収した衣服や、ものづくりと流通の過程で発生する販売できなくなった商品を、藍色に染め直し、新たな価値のある商品に再生させる取り組みです。

もっと知りたい ▾



■ ESG トピックス

サステナブルな社会に対する取り組み



再生プラスチック素材を活用した商品の拡大と、 店頭でのプラスチック回収に MUJI マイル付与を開始

良品計画は循環型社会の実現に向けて、すべてのプラスチック商品についてリユース・リサイクル・代替素材への転換を推進しています。その一環として、2024年2月に再生プラスチック原料を活用した商品を拡充しました。「再生ポリプロピレン入り ファイルボックス・ホワイトグレー」シリーズの8アイテムの原料の約20%、「再生ポリプロピレン入り 頑丈収納ボックス・ホワイトグレー」4アイテムの原料の約30%に再生プラスチックを活用しています。またお客様がご不要になった一部の無印良品の商品を店頭で回収し、リユース・リサイクルの取り組みを推進しています。プラスチックの回収を強化するため、2024年5月30日(ごみゼロの日)より MUJI マイル*付与対象を「プラスチック収納用品」と「スキンケア PET ボトル」へ拡大しました。また、これまで「衣料品」をお持ち込みいただいたお客様には、1,000MUJI マイルをプレゼントしていましたが、本取り組みの認知拡大のため期間限定で3,000MUJI マイルをプレゼントするキャンペーンも実施しました。

*「MUJI マイル」は、無印良品のお店やネットストアでのお買い物、お店へのチェックインでマイルがたまり、マイルがたまるとお買い物で使える「MUJI ショッピングポイント」をはじめとしたプレゼントがもらえるサービスです。これまで「衣料品」の回収にご協力いただいた方に1,000MUJI マイルをプレゼントしており、その対象を「プラスチック収納用品」「スキンケア PET ボトル」にも拡大しました。プレゼントは1日1回までです。



地域住民や地域事業者の皆様と対話するイベント 「タウンミーティング」を開催

良品計画は公益人本主義経営の実現を目指し、ステークホルダーの皆様との対話の機会を積極的に設けています。2024年4月からは、地域事業に注力している無印良品の大型店舗を中心に、各店舗の社員が企画する少人数形式での対話イベント「タウンミーティング」を開催しています(2024年8月期は計14回開催)。地域住民や地域事業者の皆様を広くお迎えし、当社の事業活動への理解を深めていただくだけでなく、地域の皆様が目指す地域の姿や無印良品に期待することをお伺いすることで、より地域に根付き、寄り添った事業活動へつなげていくことを目的としています。今後もより多くの地域でタウンミーティングを開催し、地域の皆様と課題や価値観を共有しながら、地域への良いインパクトの創出に貢献することを目指していきます。

もっと知りたい ▾

<https://www.ryohin-keikaku.jp/news/>



株式会社良品計画

〒112-0004 東京都文京区後楽2-5-1 住友不動産飯田橋ファーストビル

<https://ryohin-keikaku.jp/>

Ryohin Keikaku Co., Ltd.

Iidabashi First Building 2-5-1 Koraku, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-0004, Japan

<https://ryohin-keikaku.jp/eng/>

